

|       |       |
|-------|-------|
| 指導教員名 | 上瀧 真生 |
|-------|-------|

|      |        |     |        |
|------|--------|-----|--------|
| 活動区分 | 地域活性化型 | 連携先 | 多可町商工会 |
|      |        |     |        |
|      |        |     |        |

## ～ 多可町商工会との社会連携企画 ～

### 活動の様子



2024年11月11日、多可町フィールドワークにて紙すき体験



2025年1月31日、本学にて最終プレゼン

### 企画・活動概要

多可町を住みたい町にするために行政や企業に向けた提案を行う。  
地方から都会に出ていく若者が多い中で、どのような企業や政策や取組があれば人が帰ってくるのか、また、移住したくなるような町にするのはどうしたらいいかを若者目線で考える。  
多可町でのフィールドワークを踏まえ、提案内容を練りあげ、最終プレゼンを行う。

### 経緯・背景・目的

多可町商工会より本学に社会共創企画の提案があり、3年次上瀧ゼミ(研究演習Ⅱ)が受託。  
10月4日、多可町商工会の方々(4名)が本学に來訪され、ゼミ生と意見交換。  
11月10日～11日、ゼミで多可町にてフィールドワーク。多可町ふれあいまつりに参加、自然散策、商工会や町役場のみなさんと懇談、和紙づくり体験、企業訪問(4社)などを体験。  
12月13日、ゼミ生が作成したプレゼン資料をもとに、Zoom ミーティングにて多可町商工会の方々との意見交換。  
1月31日、最終プレゼンには多可町から経営者・役場職員など15名が本学に來校され、真剣に耳を傾けられた。



2024年10月4日、本学にて初めての意見交換

### 取り組む課題

多可町の実情を踏まえ、若者の目線で多可町を住みたい町にするための提案を行う。

### 本学(学生)の役割

多可町でのフィールドワークを実施。  
提案のアイディアを出す。  
アイディアを整理する。  
データや資料を探索し、アイディアに肉づけする。  
最終プレゼン資料をまとめる。  
最終プレゼンの報告と意見交換を行う。



2024年11月11日、多可町フィールドワークにて企業見学

### 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

最終プレゼンで多可町の実情を踏まえ、若者の目線で多可町を住みたい町にするための提案を行った。最終プレゼンには多可町から経営者や町役場職員など15名が來学され、真剣に耳を傾けられた。また、意見交換も行った。  
学生は、プレゼンを準備する過程で、アイディアを出し、整理し、裏づけとなるデータや資料を探索し、アイディアに肉づけする作業を行った。また、意見交換会、最終プレゼン、懇談会などで経営者や自治体職員と意見交換を行った。  
その中で、考え、調べる力、プレゼンテーションの能力を身につけた。また、経営者や自治体職員の方々との交流をつうじて、経験値を増した。



2025年1月31日、本学にて最終プレゼン

### 指導教員および関係者の紹介

#### <指導教員>

経済学部  
経済学科  
教授  
上瀧 真生(コウタキ マサオ)

<専門・担当科目等>  
社会保障論、日本経済論

#### <関係者・企業等>

多可町商工会  
経営支援課主事  
後藤 綺花(ゴトウ アヤカ)

多可町商工会との社会連携企画をつうじて、ゼミ生は貴重な体験を積み、大きく成長しました。  
この機会を与えていただき、暖かな援助をつづけていただいた多可町商工会のみなさまに心より感謝いたします。